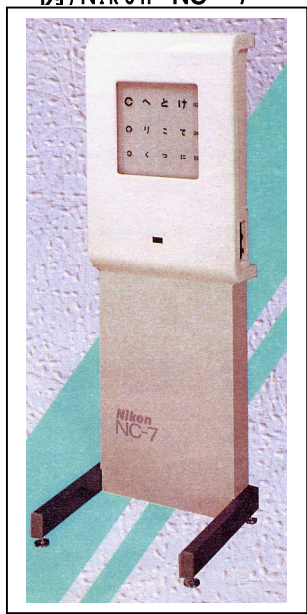


# 網膜対応検査 (偏光版テスト:Pola test) - 多目的両眼視機能検査

**目的** できるだけ日常視に近い状態での遠見の眼位・立体視・不等像などの両眼視機能検査  
 できるだけ日常視に近い状態(両眼開放)での視力検査

**準備物** 偏光版検査器・偏光フィルタ **分離方法** 偏光フィルタ **検査方法** F 対 P

例) Nikon NC-7

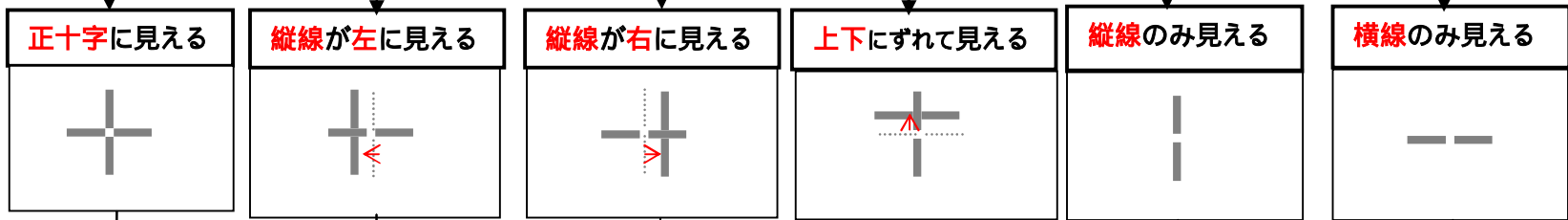


明室にて遠用は 5m 又は 6m (近用は 40cm ツアイ  
 ス製) で偏光フィルタを装着して検査する

原則として中心窩固視で  
 左右の著しい視力差がなく、網  
 膜対応が正常であるもの。  
 例) ツアイス製 ニコン製

## 斜位(十字)テスト

\* 右眼に | 左眼 -- が見える場合



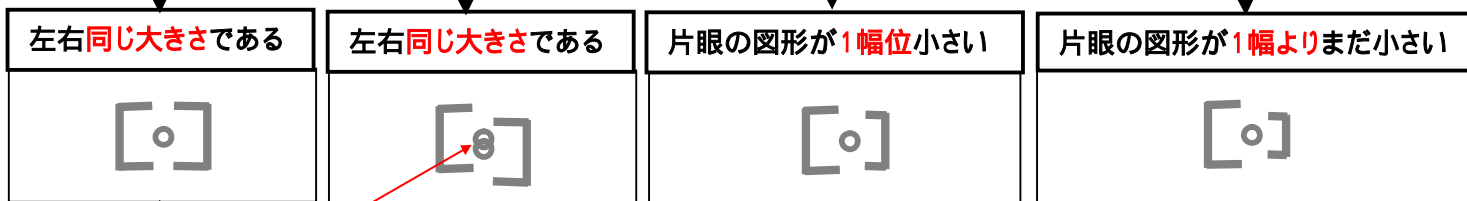
正十字に見える → 両眼単一視?  
 縦線が左に見える → 交叉性複視 → 外斜位(視)?  
 縦線が右に見える → 同側性複視 → 内斜位(視)?  
 上下にずれて見える → 上下複視 → R/L?  
 縦線のみ見える → 左眼抑制又は対応欠如  
 横線のみ見える → 左眼抑制又は対応欠如

この場合の判定方法は判ってるよね、  
 復習しておくこと。

偏光フィルタの上から固視眼と思われる方からカバーテストをする(顕性の偏位を確認する)

## 不等像視(コの字)テスト

\* 右眼に ] 左眼 [ が見える場合



融像図形

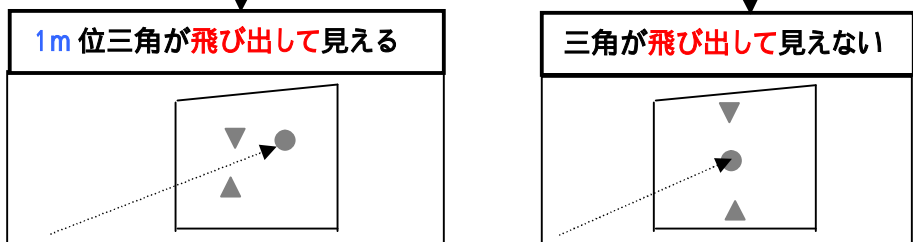
視能学 P314 図 33 では 1 幅  
 で 7% となっているが、3.5%  
 だと思うが...  
 詳しくは不等像検査の項で。

浮き出した上下三角形の頂点の、  
 中央からの位置によって、左右  
 眼の均衡状態の定量ができる。

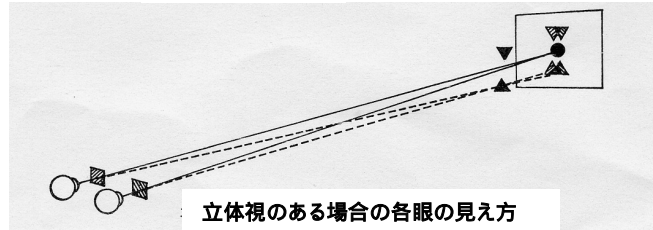
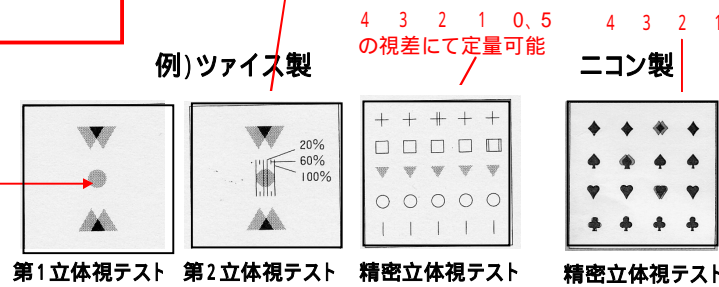
中央に融像図形がある為、抑制がかかり  
 にくく十字テストで抑制の  
 かかるような上下偏位も測定  
 でき、プリズムで中和すると  
 定量もできるとなっており、  
 視能学 P314 図 33 では丸円が  
 融像した図となっているが、  
 感覚性融像範囲内の僅かな  
 偏位なら中央のも融像する  
 ことも可能だが偏位が大きい  
 場合は線条レンズの光源の  
 ように 2 つになると思うが...

## 立体視テスト

\* 右眼に左側 左眼に右側 が見える場合



融像図形

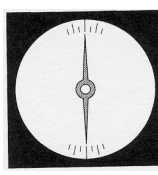
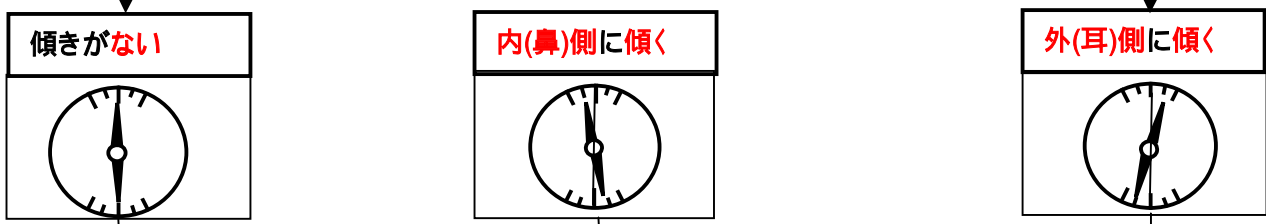


立体視のある場合の各眼の見え方  
 視能学 P314

YES → 偏光フィルタを上下逆にすると三角が凹んで見えるか? → 立体視(+)  
 NO → 立体視(-)  
 凹凸の一方のみ判る場合は、  
 その旨を記載すること。

## 回旋斜位(時計)テスト

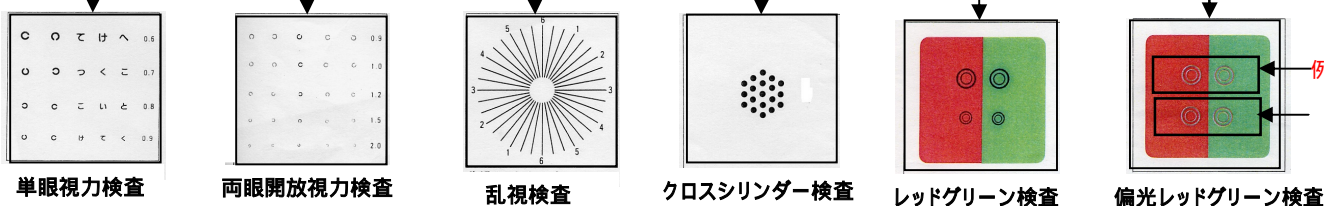
\* 回旋偏位眼に | 固視眼に ⊙ が見える場合



目盛りは 5° 刻み。  
 詳しくは 5. 眼位検査の項で。

回旋偏位なし → 時計の針が見える眼の外方回旋斜視(位)  
 時計の針が見える眼の内方回旋斜視(位)

## その他: 単眼視力検査・両眼開放視力検査・乱視検査・クロスシリンダー検査・レッドグリーン検査 例) ニコン製



例) 右眼のみ  
 左眼のみ } 両眼開放下での S 面の微調整

## 偏光版テストのシュミレーション

ポラテストと視力検査器の下方にある十字の2班に分かれる

一人が被検者となり、プリズムを Base in, out, 斜め, up, down に装用し、それぞれ見え方を言う。

それぞれの見え方を理由とともに記載する。